

置戸町ゼロカーボンシティ宣言

近年、地球温暖化による気候変動の影響により想像を絶する自然災害が全国で頻発しております。本町においても、記録的な大雨や降雹などの気象災害による被害が発生し、町民生活に大きな影響をもたらしています。

今や世界規模の課題である気候変動問題の解決に向けて、2015年にパリ協定が採択され、「世界的な平均気温上昇を工業化以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追究すること」という世界共通の長期目標が掲げられ、2018年に公表されたIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の特別報告書によれば、目標達成のためには「2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロにすることが必要」と示されました。

本町は、面積の約8割を占める広大な森林と町を貫流しオホーツク海へ注ぐ常呂川を有する「緑と清流のまち」であります。将来にわたり、この豊かな自然環境を次世代にしっかりと引き継いでいくため、町民の皆さん、事業者の皆さんとともに、2050年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」の実現を目指すことを、ここに宣言いたします。

令和5年3月9日

置戸町長 深川 正美